

計画区分		3 地域全体で高齢者を支える体制の整備						
NO	目指す姿	課題	取組の方向性・考え方・手段	取組			担当	備考
				R6実績	R7	R8		
1	住民や地域が主体となつて地域内での助け合いが行われている	区内の助け合いの仕組みとして導入した、生活・介護支援サポーターが活動できていない。 区の活動への参加が減少する中、役割を明確化し、主体的に活躍できる後押しが必要だが、うまくできていない。	社会福祉協議会の生活支援コーディネーター（SC）が主となり、地域内での暮らしを維持するための仕組みの一環として、サポーターをリードしていく	・箕輪町社協SCと、「健康な状態を維持する・つまずきがあつても自分の力で元の暮らしに戻す支援を行う」方向性を共有。 その上で生活・介護支援サポーターのフォローアップを行い、同様の考え方を共有した	・生活介護支援サポーター連絡会にて具体的な活動を模索（5月） ・生活介護支援サポーターの地域ケア会議への参画を模索。 ・社協SCと包括職員が一緒に地域へ訪問する機会を増やし、各地域の社会資源とサポーター、支援者を結び付けていく	生活介護支援サポーターが地域ケア会議へ参画総合事業と関連しながら地域支援が行えるよう連携していく		SC…社会福祉協議会の生活支援コーディネーター
2	移動の希望が叶いやすい状況がある。	高齢者の移動支援策として「まちなかタクシー」を実施しているが、なお移動の希望が叶わない声がある。 フレイル対策としても重要な要素であるが、全ての移動の希望を叶えるのは困難	移動の実情を見据えながら、移動の目的から考えて代替する手段や、保険適用による乗り合いなど、現実的な着地点を見定める	住民主体の移送に関する法改正、移送の実例、近隣の取組等の情報把握、地域移送を前提とした自動車保険の提案、カーシェアリングの運用など、実施に向けた課題整理を行った	地域ケア会議にて移送問題についての薪拾い（情報収集と対話）を行い、課題と真因について深掘りしていく。 民間の移送事業希望者支援として、国交省等の専門家の支援を仲介し後方支援や学習会を開催。	箕輪町の実情に合った移送サービスのモデル事業の検討		フレイル予防における社会参加を主軸とした地域主体の移送支援を模索していく。
3	「困ったら包括」の認知度向上	フレイル状態等の高齢者ならではの困り感が出た時の相談先が知られていないため、地域包括支援センターの認知度向上を図る。	地域包括支援センターの相談窓口、活動内容の周知	「困ったら包括」をキャッチに、箕輪町地域包括支援センターを紹介するイラスト・チラシを作成し、町内報や出前講座等で配布。	地域包括支援センターの普及啓発。 地域ケア会議等にて地域包括支援センターの役割等を普及啓発。	困った対象者、包括と関わる専門職からの相談件数が増える。		

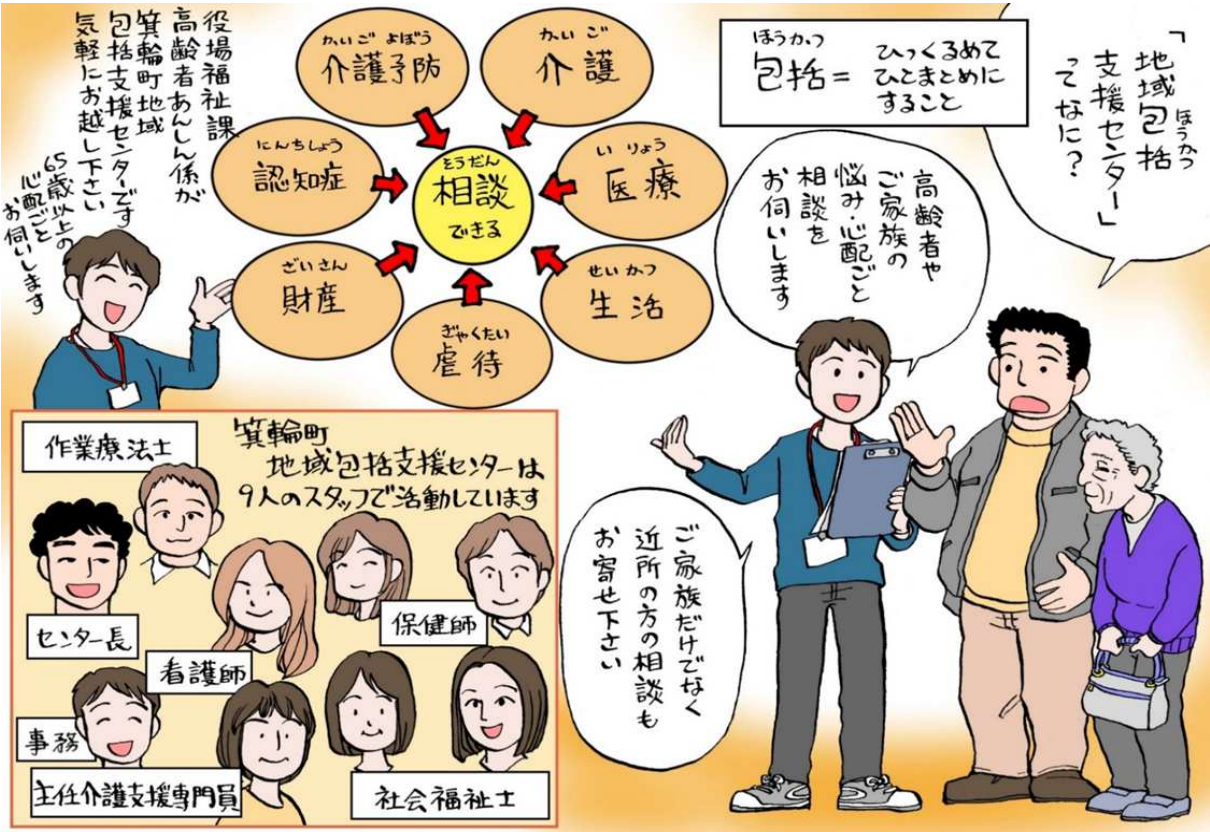
○計画に定める成果指標のうち本事業に関連のあるもの

NO	内容	回数	備考
1	生活・介護支援サポーター養成講座の実施	R6 目標2回 実績2回	箕輪町社協SCとの会合（R6.11月）、生活・介護支援サポーター連絡会（R7.2月）
2	支えあい活動実施地区数	R6 15地区（R5 15地区）	第1層（全長）

○その他取組の実績

NO	内容	回数	備考
1	鶴亀講座	12回（R5 12回）	75歳後期高齢者になる方への講座
2	出前講座	23回（R5 16回）	出前講座（長寿クラブ、ふれあいサロン、いきいき百歳体操等）

④ その他



箕輪町地域包括支援センターのイラスト